

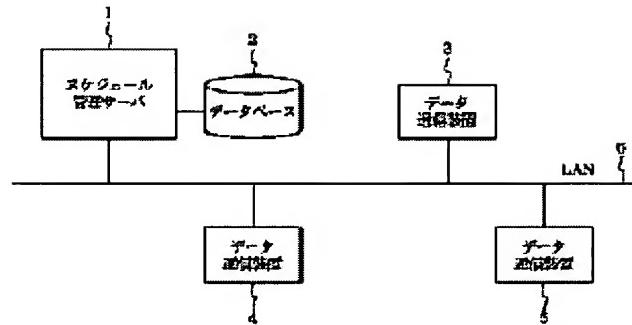
SCHEDULE CONTROL SYSTEM

Patent number: JP7262265
Publication date: 1995-10-13
Inventor: MOCHIZUKI YASUSHI
Applicant: CANON INC
Classification:
- international: G06F17/60
- european:
Application number: JP19940045894 19940316
Priority number(s):

Abstract of JP7262265

PURPOSE: To make a schedule excusable with respect to moving time by registering the schedule by referring to a moving time storage means at the time of registering an inputted schedule in a schedule table.

CONSTITUTION: This system is provided with a schedule control server 1 controlling the schedule of an individual user who is registered and a data base 2 registered with the schedule table of each individual user and the time required for moving between areas. The schedule control server 1 includes a memory and CPU for storing a procedure and executing it. Furthermore, data communication equipments 3, 4 and 5 are respectively provided with a keyboard for inputting the schedule, a retrieving instruction, etc., a display for displaying the result of retrieving input contents and a memory for storing information. Then, at the time of registering the inputted schedule in a schedule table, the schedule is registered by referring to information on the moving time stored in the data base 2.



Data supplied from the esp@cenet database - Patent Abstracts of Japan

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-262265

(43)公開日 平成7年(1995)10月13日

(51)IntCl.⁶

G 06 F 17/60

識別記号

序内整理番号

F I

技術表示箇所

G 06 F 15/ 21

L

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全5頁)

(21)出願番号 特願平6-45894

(22)出願日 平成6年(1994)3月16日

(71)出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72)発明者 望月 泰志

東京都大田区下丸子3丁目30番2号キヤノン株式会社内

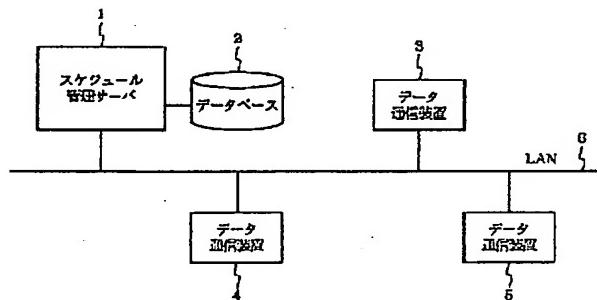
(74)代理人 弁理士 丸島 儀一

(54)【発明の名称】 スケジュール管理システム

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 スケジュールを作るとき、移動時間を考慮してスケジュール作る必要がある。かかる発明はその点を解決する発明である。

【構成】 移動時間のテーブル2を設け、スケジュールを作るとき、それを参照してスケジュールを登録する。



た場合、前記スケジュール表に登録するステップにより実現する。

【0006】

【実施例】図1は本発明の実施例のブロック図を示している。図1は本実施例のスケジュール管理システムの構成を示すブロック図であり、図中1は登録されているユーザ各個人のスケジュールを管理しているスケジュール管理サーバ、スケジュール管理サーバ1は図4、図6に示す処理手順を記憶し、それを実行するメモリ、CPUを含んでいる。2はユーザ各個人のスケジュール表及び地域間の移動時間が登録されているデータベース、3、4、5はユーザがサーバの機能を利用するためのデータ通信装置、データ通信装置3、4、5はそれぞれ、スケジュール、検索命令等の入力を行なうキーボード及び入力内容検索結果を表示する表示器及び情報を記憶するメモリを有する。6は各データ通信装置とスケジュール管理サーバとを接続するLANである。

【0007】図2は本実施例のスケジュール管理サーバが管理しているスケジュール表である。図は(1)がA氏、(2)がB氏、(3)がC氏のスケジュール表でデータベースに記憶されている。なおサーバ内のメモリにあっても良い。

【0008】図3は地域間の移動時間が登録されているデータベースの移動時間テーブルである。テーブルには、その区間を移動するのに要する時間が登録されている。

【0009】図4は本実施例のスケジュール管理システムの会議開催通知を例にとった動作を示すフローチャートである。

【0010】本実施例のスケジュール管理システムの動作を図4のフローチャートにそって説明する。

【0011】まず、ステップS1で会議主催者が、会議の日時を決定するため、開催したい日にちの範囲をもよりのデータ通信装置から入力する。例えば、6月1日～6月5日というように入力する。また、同時に会議開催場所も入力する。

【0012】次にステップS2でリストアップされた会議出席予定者を同様に入力する。

【0013】そうすると、ステップS3で会議出席予定者のスケジュール表にアクセスし、ステップS1で入力された期間のスケジュールの情報を取り出す。スケジュール表には図2のように何時から何時までは何処にいるかという場所の情報が入っている。ここで、図2のスケジュール表は6月3日のものとして、(1)のA氏は15:00まで東京で打ち合わせ、18:00から東京で打ち合わせに、(2)のB氏は15:00まで千葉で打ち合わせ、18:00から東京で打ち合わせに、

(3)のC氏は15:00まで東京で打ち合わせ、18:00から横浜で打ち合わせになっている情報がデータベースから得られる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】スケジュール表をデータベースとして備えた情報処理システムにおいて、スケジュールを入力する入力手段と、移動時間の情報を記憶する移動時間記憶手段と、前記入力手段より入力されたスケジュールを前記スケジュール表に登録する際に、前記移動時間記憶手段を参照してスケジュールを登録する登録手段とを有するスケジュール管理システム。

【請求項2】スケジュール表をデータベースとして備えた情報処理システムにおいて、スケジュールを入力する入力ステップと前記入力ステップで入力されたスケジュールを前記スケジュール表に登録する際に、移動時間記憶手段に記憶された移動時間の情報を参照してスケジュールを登録すべきか否かを判断するステップとを、前記判断ステップにより登録すべきと判断した場合、前記スケジュール表に登録するステップとを有するスケジュール管理方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、会議・会食等の予定を登録するスケジュール管理システムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、会議・会食予定を登録するスケジュール管理システムは、管理者が関係者宛に会議開催通知を入力すると同時に関係者各位のスケジュール表に自動記入されるよう構成されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来例では、移動時間を考慮していないために、会議にとても間に合わないような無理なスケジュールが組まれたりなどの欠点があった。

【0004】

【課題を解決するための手段（及び作用）】本発明は以上のような欠点を解決するため、スケジュール表をデータベースとして備えた情報処理システムにおいて、スケジュールを入力する入力手段と、移動時間の情報を記憶する移動時間記憶手段と、前記入力手段より入力されたスケジュールを前記スケジュール表に登録する際に、前記移動時間記憶手段を参照してスケジュールを登録する登録手段とを設けて実現する。

【0005】本発明はまたスケジュール表をデータベースとして備えた情報処理システムにおいて、スケジュールを入力する入力ステップと前記入力ステップで入力されたスケジュールを前記スケジュール表に登録する際に、移動時間記憶手段に記憶された移動時間の情報を参照してスケジュールを登録すべきか否かを判断するステップとを、前記判断ステップにより登録すべきと判断し

10

20

30

40

50

【0014】ステップS4でシステムは移動時間データベースのテーブルにアクセスする。図3に示すように移動時間テーブルには地域区間における移動時間が登録されている。図3より東京一千葉間の移動時間は80分、東京一横浜の移動時間は40分と検索される。ここで、東京一東京間の移動時間は場所が変わらないので0分と見なされる。

【0015】ステップS5で会議開催日時の候補を算出する。上記例の6月3日の場合、B氏が千葉から東京に戻ってくるのが80分であるから、ここでは会議開催時刻は16:20となる。また、C氏の次のスケジュールが横浜で打ち合わせのため40分かかるとすると会議終了時刻は17:20となる。よって、1つの候補として6月3日16:20～17:20という候補が挙げられるわけである。

【0016】ステップS6で挙げられた候補の中から会議主催者が会議開催日時を決定する。

【0017】ステップS7でシステムは決定された会議開催日時と場所を会議出席予定者のスケジュール表を更新して、システムは終了する。

【0018】〔他の実施例〕以上の実施例では、ステップS5において、入力された会議出席予定者全員のスケジュールからは会議開催日時が決定できないことがある。そこで、新たに会議出席予定者に優先順位をつけることで、この優先順位を考慮して会議開催日時を決定することも考えられる。これを第2の実施例として説明する。

【0019】図5は会議出席予定者に優先順位をつけてもたせた優先順位テーブルである。図は会議出席の優先順位として1位はC氏、2位はA氏、3位はB氏であることを示している。このテーブルは会議主催者が、会議出席予定者を入力するときと同時に優先順位も入力することによって、システムによって生成されるものである。この場合、同じ順位を複数の会議出席予定者に付けても問題はない。

【図2】

(1) A氏	13:00 - 13:00 場所: 会社本社 内容: 打ち合わせ	13:00 - 15:00 場所: 千葉工場 内容: 打ち合わせ
(2) B氏	18:00 - 19:00 場所: 会社本社 内容: 打ち合わせ	18:00 - 10:00 場所: 横浜支社 内容: 打ち合わせ
(3) C氏	⋮	⋮

【0020】図6は会議出席の優先順位を考慮したシステムのフローチャートである。図4と異なっている点はステップS8とステップS9である。

【0021】ステップS8では、ステップS3～ステップS5までの動作で会議開催日時の候補が算出できたかどうか判断する。もし、候補がなかった場合は、ステップS9において、システムは図5の優先順位テーブルにアクセスし、順位の低い会議出席予定者を除きながら、ステップS3～ステップS5の動作を繰り返す。

【0022】そして、開催日時が算出できたら、会議主催者が日時を決定し、出席できるユーザのスケジュール表だけを更新して、システムは終了する。

【0023】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、会議主催者が会議開催予定場所および開催期間および出席予定者を入力するだけで、全員の都合のよい会議開催日時が決定され、各自のスケジュール表に移動時間に無理のないスケジュールを組むことができるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例のスケジュール管理システムの構成を示すブロック図、

【図2】本実施例のスケジュール管理サーバが管理しているスケジュール表を示す図、

【図3】地域間の移動時間が登録されているデータベースの移動時間テーブルを示す図、

【図4】本実施例のスケジュール管理システムの会議開催通知を例にとった動作を示すフローチャート、

【図5】優先順位テーブルを示す図、

【図6】その他の処理手順を示す図。

【符号の説明】

- 1 スケジュール管理サーバ
- 2 移動時間データベース
- 3、4、5 データ通信装置
- 6 LAN

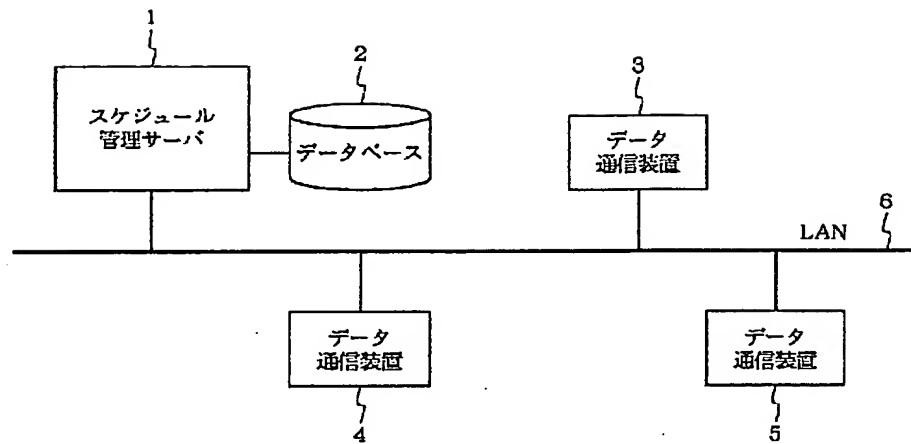
【図3】

移動時間テーブル	
区間	時間(分)
⋮	⋮
東京本社→横浜支社	40
東京本社→千葉工場	80
東京本社→大阪支社	240
⋮	⋮

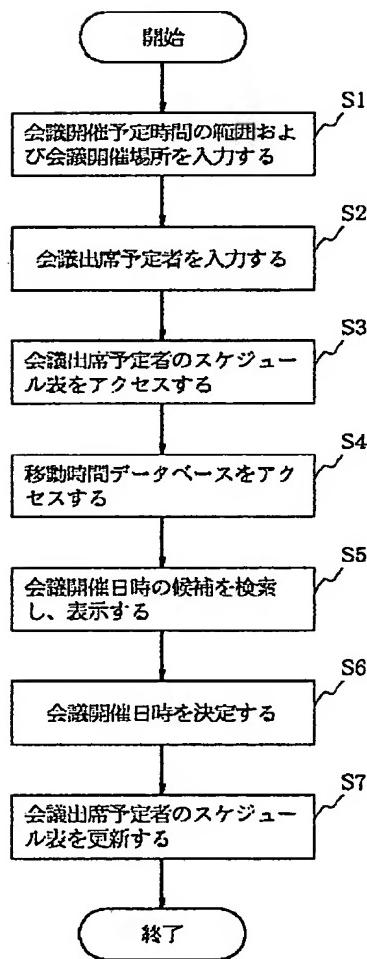
【図5】

優先順位テーブル	
会議出席予定者	優先順位
⋮	⋮
A氏	3
B氏	3
C氏	1
⋮	⋮

【図1】



【図4】



【図6】

